

昭和37年5月28日 第3種郵便物認可
昭和50年5月15日 印刷(毎月1回)
昭和50年5月20日 発行(20日発行)

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

土木学会論文報告集

No. 237, 1975-5

層別サンプリングによる破壊確率の算定.....	沢田 勉 宇都宮 英彦	1
一軸曲げと軸力を受ける棒の有限変位理論.....	西野 雄 倉方 龍夫 後藤 肇	11
波状曲面上の層流振動流れの理論.....	宇多 高明 日野 幹雄	27
泥水密度流に関する基礎的研究.....	芦田 和男 江頭 進治	37
グリーン関数および仮想法による波力と波の回折 計算.....	日野 幹雄 宮永 洋一	51
横スリット型防波堤の消波効果と現地への適用条件について.....	樋木 亨 岩田 好一朗	63
円管内振動流の乱流遷移に関する実験的研究.....	日野 幹雄 沢本 正樹 高須 修二	75
応答性を考慮した海浜流系と海浜地形の発生発達 に関する理論.....	日野 幹雄	87
通勤OD交通量と常住人口分布に関する研究.....	松浦 義満	99
骨組鋼構造物の繰返し最適塑性設計法(英文).....	石川 信隆	109
通勤・通学交通からみた都市圏の想定と圈構造について(英文).....	清水 浩志郎	121

土木学会

混和剤は個性を持っています。

選択にはキビシイ目で.....

混和剤は各銘柄ごとに個有の使用量や使用方法、そして効果を持っています。このため使用時には、そのつど比較試験が行われるわけです。

混和剤は、その特性を十分に認識して使うことが必要です。ですから、ただ一度だけの試験結果で混和剤の性能を定めることなどは危険です。過去のデーター、研究発表、使用実績、使用方法の簡便さ、危険度、その混和剤が十分に管理された状態で生産されているか(品質の均一性)など、総合してその特性価値や性能を判断してください。混和剤は、混和剤に適合する使用を行ってこそ、その有効な使用が可能です。

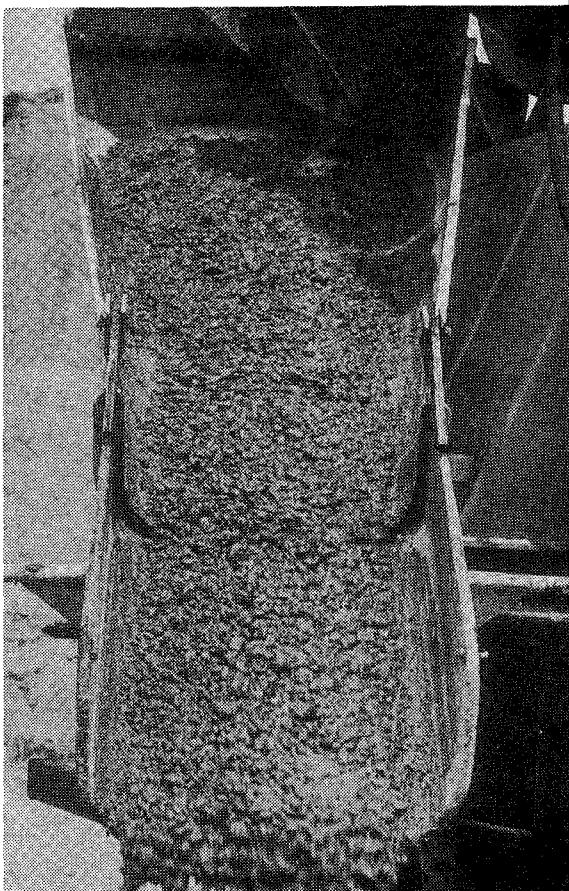
混和剤は正しく用いてください。

信頼のブランド



ポソリス物産株式会社

本社 東京都港区六本木3-16-26 (582) 8811
東京・大阪・名古屋・広島・福岡・仙台
札幌・上越・高岡・宇都宮・千葉・静岡・高松



PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

No. 237 May 1975

C O N T E N T S

Estimate of the Probability of Failure Using Stratified Sampling <i>By Tsutomu Sawada and Hidehiko Utsunomiya</i>	1
Finite Displacement Beam Theory <i>By Fumio Nishino, Yoshio Kurakata and Yoshiaki Goto</i>	11
A Solution of Oscillatory Viscous Flow Over a Wavy Wall <i>By Takaaki Uda and Mikio Hino</i>	27
Basic Study on Turbidity Currents <i>By Kazuo Ashida and Shinji Egashira</i>	37
Wave Force and Wave Scattering by Green's Function Method and Imaginary Plate-Load Approximation <i>By Mikio Hino and Yoichi Miyanaga</i>	51
Wave Dissipating Effect of a Horizontal Slit-Type Breakwater and Some Considerations of Its Construction in the Field <i>By Toru Sawaragi and Koichiro Iwata</i>	63
Experimental Study on the Transition to Turbulence in an Oscillatory Pipe Flow <i>By Mikio Hino, Masaki Sawamoto and Shuji Takasu</i>	75
Theory on the Formation of Shore-Current and Shore-Topography Based on the Response Concept <i>By Mikio Hino</i>	87
A Study on Commuter Traffic and Residential Distribution <i>By Yoshimitsu Matsuura</i>	99
Iterative Optimal Plastic Design of Steel Frames <i>By Nobutaka Ishikawa</i>	109
Regional Structure of City-Region Based on Commuting and School Attending Trips <i>By Koshiro Shimizu</i>	121

The Japan Society of civil Engineers

Yotsuya 1-chome Shinjuku-ku, Tokyo 160
JAPAN

土木学会論文報告集投稿要項要約

1. 投稿者：本会会員、ただし連名の場合は1人以上が会員であること。
2. 原稿提出期日：随時
3. 原稿の書き方について：土木学会投稿の手引き第3章参照。
 - 提出部数正原本稿（図・表・写真とも）および複写3通。
 - 図表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れする（線図・文字・符号などすべてスミ入れすること）。
 - 表は原則として活字で組むが、表の中に図が入る場合、複雑な表はすべてスミ入れするものとする。
4. 論文報告の長さ：論文報告1編の長さは原則として刷上り図表を含み10ページ以内とする。ただし、6ページまでの超過は認めめるが、その費用はすべて著者の実費負担とする。
5. 和文要旨について：和文要旨は図・表・写真を含み刷り上り0.5ページ（800字～900字）として3部提出する。なお、投稿の手引き（6ページ）に記述してある「7.欧文要旨」は現在必要ありませんのでお含みおき下さい。
6. 討議について：討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とし、論文報告集掲載後6ヶ月以内を原則とする。
7. 査読について：査読は次の5部門で行うので投稿原稿はどの部門に属するかを明記する。
 - 第1部門：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
 - 第2部門：水理学・水文学・河川工学・海岸工学・発電工学・衛生工学等
 - 第3部門：土質力学・基礎工学・岩盤力学等
 - 第4部門：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
 - 第5部門：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

土木学会論文集編集委員

◎印主査 ○印幹事

委員長	佐 武 正 雄	副委員長	◎土 屋 昭 彦	委 員	斎 藤 人	委 員	東 原 純	道 敏 山 洋 夫
委 員	阿 部 正 洋	委 員	小 川 正 二	委 員	西 井 彦 一	委 員	日 比 野	二 次 夫
"	安 藤 茂 一	"	田 匠 寛	"	坂 井 常 藤	"	日 向 泰	彦 雄
"	青 鹿 勝 之	"	大 塩 明	"	柴 田 正 雄	"	藤 田 紀	茂 宏
"	◎浅 川 美 利	"	岡 村 降 夫	"	白 砂 男	"	原 岡 捷	明 洋
"	荒 井 克 彦	"	奥 山 育 英	"	田 中 孝 则	"	条 田 芳	弘 品
"	綾 日 出 敦	"	太 田 勝 敏	"	○田 辺 忠 謙	"	北 松 和	和 利
"	井 上 武 美 浩	"	香 川 一 男	"	土 田 駿	"	松 宮 元	利 正 德
"	井 口 武 浩	"	川 原 営 人	"	谷 岐 尚 三	"	○森 地 矢	寺 正 德
"	伊 藤 義 則	"	神 田 徹	"	憲 邦 明	"	吉 山	寺 品
"	板 倉 忠 興	"	○木 村 盟 (総括幹事)	"	鳥 内 雄	"	國 城	結 品
"	石 黒 忠 男	"	菊 田 征 勇	"	中 藤 文 雄	"	渡 伸	皓 晃
"	飯 野 忠 昭	"	北 井 良 吉	"	○西 岡 隆	"		
"	稻 葉 紀 昭	"	○倉 西 茂	"	中 村 文 雄	"		
"	岩 松 幸 雄	"	○小 林 一 輔	"	○西 野 文 雄	"		
"	宇 野 尚 雄	"	小 桥 清 真	"	○西 谷 隆	"		
"	梅 原 靖 文	"	小 森 修 藏	"	野 村 亘	"		
"	○枝 村 俊 朗	"	小 波 博 英	"	和 正 勇	"		
"	小 川 紀 生	"	佐 伯 彰 一	"	桧 貞	"		

土木学会論文報告集 No. 237

定価 650 円 (円 50 円)

昭和50年5月15日 印刷

昭和50年5月20日 発行

発行者 東京都新宿区四谷1丁目

社団 法人 土木学会 専務理事 下村 肇

発行所 社団 法人 土木学会

郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目 振替 東京 16828番

電話 (03) 351-5138

日本土木史 昭和16年～昭和40年	36000円	大正元年～昭和15年	24000円
本四連絡橋鋼上部構造に関する調査報告書	48年度版	16000円	
土木製図基準 1972年版	1600円		
港大橋工事誌	30000円		
建設技術者のための測定法	2000円		
海外建設工事の契約・仕様	6000円		
海岸保全施設設計便覧	2300円		
水理公式集 46年改訂版	4000円		
構造力学公式集	6600円		
橋 1973～1974	2500円		
土質実験指導書	380円		
土木材料実験指導書 高校課程	600円	一般用	1200円
水理実験指導書	280円		
構造実験指導書	500円		
測量実験指導書	600円		
コンクリート標準示方書 49年度版・第4刷	2300円		
コンクリート標準示方書解説 49年度版・第4刷	2900円		
遠心力大径PC杭設計施工指針案	1000円		
トンネル標準示方書	1000円		
シールド工法指針	1000円		
海洋鋼構造物設計指針(案)解説	1700円		
ダム基礎岩盤グラウチングの施工指針	900円		
ダム基礎岩盤グラウチングの施工実例集	13000円		
地震応答解析と実例	5000円		
土木工事の積算	2200円		
市街地土木工事の仮設と安全対策	2200円		
基礎と地盤	2200円		
鋼鉄道橋設計標準解説 1974年改訂版	3000円		
国鉄建造物設計標準解説	4500円		
〒160 東京都新宿区四谷1丁目	土木学会	☎351-4131(販売)	振替東京16828

日本国有鉄道編

鉄道建造物設計標準解説

鉄筋コンクリート構造物および無筋コンクリート構造物・

プレストレストコンクリート鉄道橋 ●定価 4500円 ●

B5・タイプオフ500頁・並製ビニルクロス装

◎鉄筋コンクリート構造物および無筋コンクリート構造物主要目次 1編 総則 1章

総則 2章 設計における原則 3章 荷重

4章 材料の品質および許容応力度 5章

設計計算における基礎的事項 2編 部材の

設計 1章 一般構造細目 2章 スラブ

3章 はり 4章 柱・5章 壁 3編 構

造物の設計 1章 鉄筋コンクリート上路単

純桁 2章 鉄筋コンクリート下路単純桁

3章 鉄筋コンクリート連続桁 4章 シューベ

および桁座 5章 橋側歩道 6章 橋台およ

び橋脚 7章 ラーメン橋 8章 アーチ橋

9章 フラットスラブ構造物 付属資料

1~27

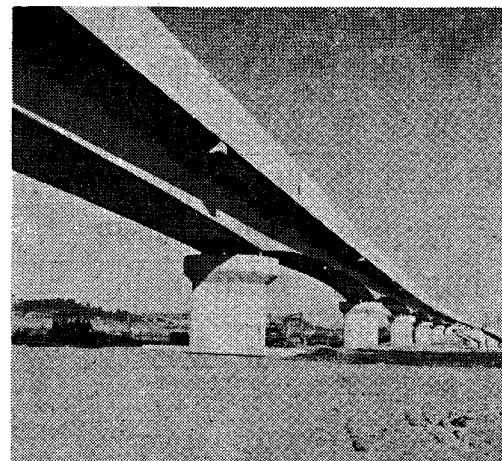
◎プレストレストコンクリート鉄道橋主要目次 1編 総則 1章 総則 2章 荷重

3章 材料および材料試験 4章 設計計算における基礎事項 5章 許容応力度 2編

構造物の設計 1章 構造物一般 2章 一般構造細目 3章 シューベおよび桁座 4章

スラブ桁 5章 T形断面の桁 6章 箱形断面の桁 7章 下路単純桁 8章 連続桁

9章 ラーメン橋



山陽新幹線芦田川橋梁(広島県)

日本国有鉄道編

好評発売中!

鋼鉄道橋設計標準解説 1974年改訂版

A5・活版印刷 402頁・上製クロース装

●定価 3000円 ●

◎建造物設計標準(鋼鉄道橋)―昭和49年3月・解説および付属資料 1章 総則 2章

荷重 3章 材料 4章 許容応力度 5章 設計一般 6章 有効断面積 7章 部材

および連結の計算 8章 板要素の幅厚比と補剛材 9章 床組 10章 溶接継手 11章

リベット継手、ボルト継手およびピン連結 12章 綾構およびダイヤフラム 13章 プレートガーター 14章 トラス 15章 支承 16章 付属設備 付属資料

◎建造物設計標準(鋼とコンクリートとの合成鉄道橋) および解説 1章 総則 2章

荷重 3章 材料 4章 許容応力度 5章 設計一般 6章 鋼桁 7章 スラブ 8章

ずれ止め

◎全国新幹線網建造物設計標準および鋼鉄道橋関連規程、規格目録

●日本国有鉄道の二大標準を特別の許可により出版した設計技術者必携の指針●

発行所 土木学会 〒160・東京都新宿区

四谷1丁目

電話 03〈351〉4131(代表) 振替口座 東京16828番

土木学会の発行書は丸善はじめ
全国の主要書店で扱っておりま
すので御利用下さい。